

CHIT CHAT RADIO 子育てCHAT ROOM

2020年10月20日 13時26分～13時49分



うちの子、忙しい子どもの習い事や塾について

—このコーナーでは、リスナーさんから届いたお悩みについて伺っておりますが、今日もメールが届いております。先生に早速、お話を伺っていきたいと思います。亀谷さん、よろしくお願ひします。

—高松市にお住まいのラジオネーム、ゴーヤ好きのママさんという四十五才の女性の方からいただいたいております。紹介させていただきます。

九才の娘が今習い事を五つやっています。習い始めた順で言うと、エレクトーンが四才から、プールが五才から、公文が七才から、英会話も七才から、学習塾は去年の八才からと言つことになります。エレクトーンとプールと公文は、「お友達をやっているからやりたい」と自発的に言ってきたのでいいかなと思つていますが、英会話と学習塾は周りのママ友と話をしていて、私から勧めて通つています。今のところ全部楽しんでるようですが、どうしてもいろいろやりすぎなのではないかと思つてしまいます。でも、ママ友の話を聞くと英会話や塾は行つておいた方が良さそうだし、自分からやりたいと言つて続けている習い事を無理矢理辞めさせるのも違つ気がするし、迷つています。最近の子どもはたくさん習い事をしていられると言われますが、これでも大丈夫でしょうか。

—こういつたお悩み、ご質問を高松市のゴーヤ好きのママさんからいただきました。これは皆さん、私も分かるという方、かなり多いんじゃないかって気がしますね。

最近、習い事をたくさんする子どもは多いですよ。

—このお子さんもそうですね、もう幼稚園の頃から習い事がスタートする子いますよね。先生、習い事をしていられるお子さんは多いということですけど、五つやっているとというのは多い方なんでしょうか？

そうですね、こういつた調査というのは、習い事に毎月いくらぐらいお金をかけているか聞くことが多いです。だいたい小学生の低学年だったら毎月一〜二万円位かけていますね。もちろん五万円以上かけている人もいますし、全くやっていませんという人もいます。だいたい一〜二つやっていて、周りから色々聞くと、うちの子もやらせないといけないと焦つてしまつたりすると思ひます。あと、昔と違つて安全上の理由から遊ぶ場所があまりないので、学校が終わつてからのスケジュール埋め合わせのために、習わせてるということもある

と思います。毎日埋めとかないと何をしてるか心配になるとか、ろくなことしないんじゃないかっていう心配で埋めちゃうっていうのもあると思います。

—習い事によっては学校まで習い事の先生が迎えに来てくれるというものもあります。送迎もなかなかできない方も多くいらっしゃるでしょうから、送迎の心配がなければ焦らず仕事ができるし、子どもも習い事ができるのでいいのでしょうか。しかし、当の子どもはどうなのでしょう。

今日の相談のお子さんは、楽しんでやっているみたいなのでいいですよ。子どもが楽しんでやっていることがやっぱり一番大事です。よく子どもはスポンジのように吸収するというので、とにかく習い事を詰め込むというお母さんもありますが、好きなことじゃないと吸収できません。嫌なのにやらされてるようなことってというのは、いくら小さいからといって体にすぐ染み込むことはないですよ。

—そうですね。

何か好きなことをやってるというのが学びの力になります。楽しんでいるのが一番大事です。あとは、親が喜ぶから楽しんでるふりをする子どももいます。辞めたいと言いつけないとか。

—気を遣ってしまう子ですね。

私は神奈川県から香川県に引っ越してきたんですが、引っ越し前に息子に水泳を習わせていたんですけど、「香川に来て一番良かったのは水泳が辞められたことだ」と言われました。あまり好きじゃなかったんですね。

—息子さんがこちらに来た時に自分から言われたんですか？

はい。「近頃はあんなに、続けるって言ったならやりたくない」と言われて(笑)。週に二回も入れてしまっていました。一生懸命行ってる姿を見ると、私が喜ぶから行ってたってことだったのかなって切ない気持ちになりました。

—親にしてみると子どもに気を使わせてしまったと思いますよね。

その前も柔道やっていたんですが、色々道着とか買っちゃうと、なかなか辞めたいと言いつけなかったりしましたね。やっぱり子どもは、自分に向いてるものを見つけたために、いくつかトライしていかないと本当にそれが好きかどうかって分かんないですよ。

—色々な経験をするのは良いことなんですよ。

そうですね。いろいろな経験をして、自分に向いてる向いていないとか、好き嫌いっていうのはわかるなと思うんですよ。ただ、練習道具がものすごく高いと、親もやっぱり執着して辞めさせられなかったりとかしますよね。

—例えば十万円するような楽器を買って音楽を習いだしたら「十万円出したんだから続きなさいよ」ってなりますよね。

そうですね。自分の反省会みたいなんですけど、娘が小学校のアンサンブルクラブに入っただんですが、学校の楽器じゃ物が良くないというので、おじいちゃんおばあちゃんに寄付してもらって二十万くらいするフルート買ったんです。それで、中学一年になったら、「そりゃ吹奏楽に入るよね」ってプレッシャーかけちゃって、吹奏楽に入っただんです。でも入ってから入ってみただけ好きじゃなかったんですね。本当は卓球がやりたかったけど言い出せず、吹奏楽は一年続けて結局やめました。やりたくなかったのに高かったらと一年も我慢させてしまったんだと思うと申し訳ないです。失敗体験ですね。

—でも、そこを読み取るというのは難しいですよね。親は「もしかしたら、才能が開花するかもしれない」、私も自分の子を見ていて「三才の頃からゴルフやらせたらプロゴルフアーになれるかも」なんて、親の欲で考えてしまいます(笑)。ゴルフはやらせてないんですけど、「タイガーウッズも三才からやってたっていうしなあ」とか、他の方々の成功体験を聞くと「三才になったからやらせなきゃ」と親の気持ちとしてはあります。習い事はどれぐらいが本人にとってはいいのかとか、辞めたいって言う気持ちはどう汲みとったらいいのでしょうか。なんでもかんでも途中で止めていくっていうのも今後にいい影響を及ぼさないし、ある程度我慢して続けてたら、その先にいいことがあるかもしれないよっていうふうに教えるのもいいですよね。この辺は先生いかがでしょうか。

そうですね、あの世界的ベストセラーの「やり抜く力」って言う本を書いたアンジェラ・ダックワースさんと言うアメリカの教授は、その「やり抜く力」の高さによって、将来の成功を予測できるという研究をしました。子どもの時や思春期でやるスポーツであるとか、習い事などの取り組みがある程度の期間つづけること、ちょっととした難しい事でも乗り越えられる体験を積み重ねること、その「やり抜く力」が伸びていく、そしてそれが将来役に立つというわけです。

その方自体もお子さんがいるのですが、その子どもたちもいろんなことに取り組みむけど、途中でやめちゃったりすることもあるそうですね。辞めることは構わないけど、問題なのは辞めさせ方だそうです。例えば、あと一年やるとか、この月謝を払った分までやるとか、「キリがいいところまでやる」といっのが良いそうですね。「怒られたからもう次から行かない」とか、「試合で失敗したから行かない」とか突発的に辞めると、その子の中で失敗体験になっちゃいますよね。同じ辞めるでも、ある程度のところまでやるか、例えば「自分は一年ピアノを習ったことがある」って言えるけど、怒られたから辞めちゃうとそのやっていたこと自体を消したくなりますよね。自分の中で失敗体験になってしまっんですよね。

—自分は逃げたと思ってしまいますよね。

あともう一つなるほどなと思うのが、「親も一緒に何かを一生懸命取り組む」っていうのが大事なことです。家族一人一人が何かに取り組んで、がんばってみようって目標を設定するんです。同じ内容でなくていいんです。私達って子どもにやらせることばかりですよ。習い事に行っても見ているだけとか。自分にはあまり投資をしないんですけど、自分自身も目標に向かって頑張るっていうのがいいと思います。

—親も何かに対して頑張っている姿を子どもに見せるっていうのもプラスに働いてるんですよね。

—これは大きいでしょうね。大人も口だけじゃなくて、ちゃんとやっているよっていうことを子どもも気づくと思います。

私、フラダンスやってたんですよ。

—いろいろなことされていますね(笑)。

フラダンスの発表会に向けて練習していて、夫は見たくないって言うんですけど(笑)。隣で一生懸命練習して、子どもに発表会で写真撮ってもらったり、ちょっと一部失敗してみたりとかしながらも頑張る姿を見せられたのはよかったです。

—子どもさんとの距離が近づくところが、友達感覚で絆がまた違った形でできそうな感じがしますよね。大人が頑張っている姿っていうのは、失敗して心が折れることとかもあるから、大人も悩んだりするんだと知ったら、子どもも悩みが言いやすくなりますよね。

—大人が失敗にどう向き合って対処していくかを見るのはいいですよ。

もうやめたいと思うこともあるけど、この期間の最後まではやろうとか、自分がクラブの係りとかだったら、それが終わるまでは責任もってやろうっていう姿勢も見せられますよね。

—今日のゴージャ好きのママさんもお子さんはたくさん習い事をしていますけれども、これは大丈夫なんじゃないかっていうところに関しては、先生の話聞いてると子どもはイヤイヤではなく、楽しんでいてるところであればいいのかなと思います。いかがでしょうか。

そうですね。率直に言うって、子どもの生活の中で「楽しむ」ことをすることも大事なのですよ。「休む」ということも大事です。のんびり過「す」とか、気ままに過「す」ということです。

そうしないと与えられたものを一生懸命こなして生活が終わります。ほーっとしているところ、これやろうかなとか、浮かぶアイデアはあるので、大人もそうなのですが、そういう時間を作ってあげるほうがいいですよ。

—これ大事ですよね。その時間に子どもが何かしたら、「次あそこに行きたい」とか想像して、自分の意思、自分の足で動くことができますよね。よく大人だと、「レクリエーション」といいますが、あれは、レ(再び)クリエーション(創造する)っていうところから「レクレーション」という言葉が出来たそうです。のんびり気ままに過ごす時間がそういう時間なんですよね。その自由な時間をお子さん達にも作ってあげるといいですよね。

スケジュールを埋めなくても、一日の中でも、週の中でもちょっと空白になる時間を持つことが大事ですね。スケジュールを全部埋めてしまうのは、やらせすぎかなと思います。

—一度ゴージャ好きのママさんは九才の娘さんと一回話をしてみて、もっとゆっくりした時間が欲しいかとか、これは続けたいよねと話をしてみるのもいいかもしれません。

そうですね。

—小学校に上がると学習塾に通うお子さんもいますよね。なぜかという自分が教えていると喧嘩になるかららしいんです。「なんでわかんないの」って親が言ってしまう、どっちもイライラして喧嘩になって、結局勉強にならないし、他の事まで怒ってしまうから塾に任せている方もいるそうです。この辺はいかがでしょうか。

私も本当にその通りでした(笑)。息子が中学生になって成績が良くなかったんですね。なんとかしなきゃと思っても、自分も忙しかったし教えられないので、塾に行かせました。教えるのがうまくないからというのもあったのですが、私自身が安心したいから塾に行かせていたなと思います。今思うと、塾の内容をよく確認しなくちゃいけないかなと思います。例えば、うちの息子みたいに現時点の勉強についていくのが難しいのであれば、それは分からないところに戻って一対一で見えてくれるような塾のほうがいいと思います。でも、行った塾がみんなでやる授業型だったんですね。しかも、先の内容を塾で習って、学校での授業を復習の形になるようにするんです。今のことも分らないのに、先の内容なんてちんぷんかんぷんだったはずですよ。週に何回か行っていたあの塾の時間は、ただ座って友達とお喋りしてぼーっと無駄な時間を過ごしてただだと思つくと、ただ私が安心したいがためにお金を払っていたに違いないと思つています(笑)。

—でも親御さんにとつての安心というのはお子さんの将来のことを考えてのことなので、決して悪いことはない気がします。

—中身を吟味することが大事だったんですね。

そうなんです。調べたらいろんなタイプの塾があって、進字型もあるし、勉強についていけない子を温かくフォローする型の塾とかもあるもので、いくつか調べて友達が行ってるからという理由じゃなくて、その子に本当に合ったものを探すのが大事だと思います。

—ちよつとプライベートの話ですけど、先生ご自身で習って良かったなという習い事は振り返ると何かありましたか？あの塾はよかったとか、あれ習っていてよかったとか。

あれ習っていてよかった…フラダンスとか(笑)。これはちよつと大人になってからですね。子どもの時はピアノを習っていました。それからもう大分やらないんですけど、ピアノみたいなものってというのは、自転車と同じで体に染みついていくんです。なので、しばらく弾いていなくても大人になってから弾くこともできるんですね。大学生の時に気晴らしに弾いていました。あとは、もっと年取ったらポケ防止に電子ピアノでも買って弾いてみようかと思っています(笑)。楽器は癒されていいですよ。

—成績にはほとんど関係ないですけど、人生の中での潤いとか、充実させるという意味ではものすごいプラスですもんね。

そうですね。

—習い事だけでもいろいろ勉強になりますね。

—そうですね。ついつい自分の価値観であれやっておけばよかった、子どもにさせようとなつてしまいがちです。これはもつともな話なんですけど、もう一つ進んでお子さんと話をしたりとか、ちよつとゆとりを持たせるとかつてというのが大事ですよ。本当に今どきのご相談だなと思います。ちよつといい雰囲気改善されていくといいですね。

子どもの習い事を通じて新しい世界を知るのは楽しいですね。私も子どもがしなければ、フルートのコンサートもアイスホッケーや剣道の試合も見に行く事はなかったと思います。自分の世界がぐつと広がったように感じました。後から思い出したのですが、息子が柔道を習っていた時、一緒に柔道をやっていたお母さんが二人いて、よく先生に技をかけられて絶叫していました。他のお母さん方は子どもを見ながら、自分はやったことがないのに子どもの出来が悪いと大声で叱り飛ばしていました。美人ママが「ケツ上げろ、ケツ！」と叫んでいたのは衝撃でした。親子で柔道をしていた子どもの方が、明るく楽しそうだったのが印象的でした。